
東北大学陸上競技部

OB・OG通信

2021年No.5 (2021.12)

- ・第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走
 - …1区松浦(M2)区間 4位
 - …6区脇田(M2)区間 13位
 - ・第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会
 - ・秩父宮賜盃第53回全日本大学駅伝対校選手権記念大会
 - …5時間41分52秒で第23位
-

- ・第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走 2～3ページ
- ・第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 3～4ページ
- ・秩父宮賜盃第53回全日本大学駅伝対校選手権大会 5～10ページ
- ・リレーマラソン（秋保マラソン代替大会） 11～12ページ
- ・宮城県駅伝競走大会 13ページ
- ・各種大会 14～16ページ
- ・自己ベスト更新者 16ページ
- ・今後の予定 16ページ
- ・編集後記 16ページ

寒冷の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走、秩父宮賜盃第53回全日本大学駅伝対校選手権大会、第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会の結果を中心に、コロナ禍で開催された各大会における選手の活躍をお伝えします。

◎第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走(10/10)・・出雲大社～出雲ドーム(鳥根)

大学三大駅伝として、また駅伝シーズンの幕を開ける大会として今年もスポーツの日である10/10日(日)に出雲の地で開催されました。本大学からは東北学連選抜として2名が出走いたしました。以下2名の感想を紹介いたします。

第1区

松浦 崇之(M2) 23分48秒(区間4位)

この度、第33回出雲全日本大学選抜駅伝競走に東北学連選抜として出場しました。私は1区を走り、結果は23'48(4位/20位)でした。とても暑かったです。よく覚えてませんが、当日のレースを私はおそらく楽しんだと思います。応援ありがとうございました。



アップをしている松浦(M2)

第6区

脇田陽平(M2) 33分14秒(区間13位)

・結果

6区 10.2 km 33'14 区間13 / 20位
ラップ: 3'10-17-19-16-18-15-21-16-14-07-38" (220m)

・レース振り返り

18位で5区の選手から襷を受け取り、40秒ほど前に札幌学院大の選手、後ろはまだ見ていない状況でのスタートになりました。スタート直後の直線では前の選手が見えていましたが、差が開きだしたために、すぐに見えなくなり、前半は単独走になりました。

暑さもあり、序盤からかなり苦しく感じたため、前半はペースをある程度落としても後半に余力が残せるよう意識して走りました。中間点付近の浜山公園の登りの前で前を走る札幌学院大の選手がスタート時くらいまで差が戻ってきていることを確認し、後半に入る下りから徐々にペースを上げ、前の選手との差を詰めるつもりで走りました。

ラスト1kmには十分に確認できる位置まで差を詰めることができ、力を振り絞ってスパートをかけましたが、14秒差で、チームとしては、18位でのゴールになりました。

・感想

出雲駅伝の東北学連選抜チームに選出されるのは、2018年、2019年に続いて3回目になりますが、過去2年は力が足りず、補欠としての参加になり、出走することができませんでした。ラストイヤーの今年は何としても出雲駅伝を走りたいという思いがありました。春先に感染症による活動制限で大会等に出場することができない中、夏

前の数少ない記録会で結果を残し、全日本駅伝の予選会での走りを含め、最長区間の6区を走らせてもらえました。

全日本大学駅伝の予選会より10日ほどしかなく調整が十分ではなく、気温30度を超え、10月にしては厳しい暑さの中で、コンディションとしてはよくない中、落ち着いた走りをする事ができたために、他大学の選手が最も距離が長い10.2kmの6区で崩れてしまった中で、区間13位で走る事ができたと思います。

以下出雲駅伝に出場されたお二方の写真が掲載されている外部の記事を2つ紹介させていただきます。

[#出雲駅伝 18位 東北学連選抜 2:25:50 アンカー 脇田陽平 \(33:14 区間 13位\)](https://t.co/yvkkX7F9dL)

<https://t.co/yvkkX7F9dL>

[陸上・駅伝・東北大学の松浦崇之、6大会連続出場の院生は歩いて鍛え大学記録更新目指す | 4years.](https://4years.asahi.com/article/14476165)

[#大学スポーツ \(asahi.com\)](https://4years.asahi.com/article/14476165)

<https://4years.asahi.com/article/14476165>

◎第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会・仙台市

宮城県仙台市の街内を駆け巡る、通称「杜の都駅伝」、全日本大学女子駅伝対校選手権大会が今年も10月31日(日)に開催されました。本大学からは東北学連選抜として2名が出走いたしました。以下2名の感想を紹介いたします。

上條麻奈(M2)

[第2区(3.9km) 14:25(区間25位)]

10月31日に仙台市内で行われました第39回全日本大学女子駅伝において東北学連選抜の2区として出場いたしました。

9月末の予選会で選抜入りが決まってから当日までは東北地区の代表として走る自覚と責任を持ち、楽しく走りきることを目標に練習を積んできました。1ヶ月という短い期間でしたが、中距離に力を入れてきた私にとって未知とも言える長距離に特化した練習を積むことで、緊張よりも楽しみが上回るような気持ちで中継所に立つことができました。襷を受け取った時点で他大

また、東北学連選抜チームとしては、私が参加した2018年、2019年と最下位が続いており、最下位脱出を目標にしていたのですが、1区の松浦の好走もあって、一時は東北地区の出雲駅伝の出場枠増枠の可能性もあるなど、近年の中では好成績を残すことができ、それに貢献でき、うれしく思います。

最後に、テレビ等で応援をして下さったOB・OGの皆様、誠にありがとうございました。

学とは大きく差が開いており一瞬不安も過ぎりましたが、襷を次区間の選手に渡すことだけを考えスタートしました。走り始めてからの記憶はほとんどなく、あっという間に終わってしまいました。結果は区間25位、タイムもあまり良いものではなく、チームとしても襷が最後まで繋がることはありませんでした。しかし、思い返してみるととても楽しく走れた3.9キロだったと思います。また、学連選抜という特殊なチームではありましたが、各自がしっかりと自分の走りをして6区間を走りきったことも今後に繋がるものになったと思います。

今後は本大会の経験も含め、後輩たちにできる限りのことを残すことを目標にして楽しく走りたいと思います。最後になりませんが、今回出場するにあたり沢山のお声かけやメッセージを頂き、改めて自分は多くの方の支えで陸上ができていることを実感しました。応援、サポート、運営をしてくださった皆様本当にありがとうございました。

阿部柚佳(3)

[第6区(6.7km) 26:52(区間25位)]

全日本大学女子駅伝において東北学連選抜チームに選出していただき、6区(6.7km)を走りました。全国の大学からトップ選手が集まるこのような大会に出場することができ、非常に良い経験になりました。

本大会までを振り返ると想像もしていなかったことの連続で、一瞬で過ぎ去っていった日々でした。今年も予選会に出場できるか分からない状況が続いていましたが、何とか人数を揃え東北大学として3年ぶりに予選会に出場しました。予選会の結果から選抜チームに選んでいただき、驚きであったと同時にとても嬉しく思いました。それからは少しでも速くなれるように本番のレースを意識して毎回の練習に励みました。1ヶ月という短い期間でしたが、非常に濃い時間を過ごすことができ、陸上競技に一生懸命向き合えた期間でした。

大会当日は繰り上げスタートになることを想定していたため、アップダウンがある3~4kmまで頑張っついていこうと考えていました。実際は予想していたよりも繰り上げになる大学数が多く、はじめの1kmが速い入りになりました。その後集団がバラバラになり始め、2kmで大きくペースを落としてしまったことが今回のレースにおける1番の反省点でした。3kmからペースを戻そうと前に追いつくことを目標にしましたが、上りで追いつききれず、下りで離さ

れることを繰り返し、単独走でフィニッシュを迎えました。今回は自分の力を信じきれなかったことや自分でペースをつくったり、見極めたりすることができなかった点が反省として残りました。

本大会を経て、長距離種目の難しさを痛感しました。基本的な走力不足はもちろんですが、レース経験や判断力の乏しさなど、練習だけでは補うことができない力の不足が顕著になったレースでした。一方で、高校生の頃から補助員として携わっていた憧れの舞台に、今回選手として出場することができたことを心から嬉しく思います。今回の経験を生かし、またこの舞台に立つことができるよう日々鍛錬していきたいと思えます。そして、女子長距離として良い報告ができるよう、全員で力を合わせ頑張っていきます。予選会から本戦まで応援、ご尽力くださったすべての皆様、本当にありがとうございました。

上條(後列左から2番目)

阿部(前列左から2番目)



東北学連選抜チームのマネージャーは、本大学陸上競技部マネージャー1年吉田飛菜(写真後列一番左)が務めました。

○秩父宮賜盃第 53 回全日本大学駅伝対校選手権大会 (11/7)・・熱田神宮～伊勢神宮

熱田神宮をスタートし、伊勢神宮まで全 8 区間 106.8 kmをつなぐ秩父宮賜盃第 53 回全日本大学駅伝対校選手権記念大会が 11 月 7 日(日)に開催されました。結果は 5 時間 41 分 52 秒、第 23 位でした。昨年よりも 6 分近くタイムを縮め、部記録(5 時間 41 分 20 秒)まで 32 秒という結果になりました。以下、出走した 8 名の選手の感想を紹介します。

第 1 区(9.5 km)

立野佑太(M2) 29 分 58 秒(区間 27 位)

全日本大学駅伝の一区を走らせていただきました。

展開としては前についてできる限り粘っていくことを想定していました。しかし予想と違い地方大が一区に留学生を起用したことで、超高速レースの展開となりました。3000m を 8' 45 付近で通過したのにも関わらず、集団から離され、かなり苦しいレースとなりました。後半のアップダウンの厳しいコースでかなりタイムが落ちましたがどうにか粘って次に繋がりました。ゴールタイムは自分の予定より 45 秒近く遅く、区間順位も最下位でお世辞にも満足はいく試合ができたとは言えませんが、昨年と違い、最後まで粘ることができました。応援ありがとうございました。



出走前の立野

第 2 区(11.1 km)

井上大輝(3) 36 分 17 秒(区間 27 位)

襷をもらった時点で 1 つ前の大阪経済大学との差は 57 秒あり、スタートして最初の坂を上り切ったときに姿が見えたがすぐに見えなくなり終始単独走でした。最初の 1km はプラン通り入れて、その後 8km まで余裕を持って走ろうとしました。時計を見るよりは感覚で走った方が良かったので、当初のプラン通り最初の 1km でラップを確認してから 5km 地点まで時計は一切見ませんでした。しかし、5km 地点で確認して想定以上にラップが遅く焦りました。ペースを上げようと試みましたがそれまでのリズムで動きが固まっていたので、3' 16~18/km で走り続けてしまいました。9~10km の 1km はだらだらとした上りになっており、さらにペースが落ちてしまいました。木曾大橋に入ってから体を無理やり動かして 3' 08/km まで上げたが時すでに遅しでした。



立野から井上への襷渡し(第一中継所)

総合成績で部記録まで 32 秒足りなかったのは自分が守りの走りをしてしまったからだと責任を感じています。今年の結果はもう変えることができないので、来年部記録に挑戦できる実をつけて伊勢路に戻りたいと思います。OBOG の方々には試走や寄付金、そして応援などさまざまなご協力をいただきました。ありがとうございました。これからも応援よろしくお願ひします。

第 3 区(11.9 km)

安本尚生(1) 38 分 42 秒(区間 27 位)

3 区に出走しました 1 年の安本です。OB・OG の皆様、支援していただきありがとうございました。自分たちは部記録更新を目標に出場しましたが、結果はあと 32 秒足りない惜しい結果となりました。以下が反省です。

自分の目標は部記録ペース(3' 12/km)で刻むことでした。具体的には、最初の 3km で少し早めに入り、中間走は 3' 15 くらいで走り、ラスト 1.9km から切り替えるというレースプランでした。しかしながら本番では入りも中間走も遅く、レースプランとはかけ離れた結果となってしまいました。原因としては、単独でペースを刻むことに慣れていなかったこと、10km 以上のレース経験が少なかったことがあります。練習は集団で行うことが多く、自分 1 人でペースを作るという経験が不足していました。単独走がいかに難しいかを思い知らされました。また、自分は高校時代に長くても 8km のレースしか経験がなく、大学に入ってからでも部内の 10km の TT と予選会の 2 回しか 10km 以上のレース経験がありませんでした。これらのことから、垂れたときの不安感が大きく、序盤からペースが遅いことが分かっていたながら切り替えることができませんでした。唯一ラスト 900m で切り替えることができましたが、結局アベレージは目標より

かなり遅いものでした。しかし、終わってみればこれが自分の実力だったのかなと思います。

最後に、本大会において OB・OG の方々の支援や協力などをしていただき感謝しております。本当にありがとうございました。来年以降も結果を残せるようより一層努力していきます。

第 4 区(11.8 km)

木村秀(5) 37 分 20 秒(区間 25 位)

全日本大学駅伝で 4 区を走らせていただきました、長距離 5 年の木村秀です。

まず初めに、予選会を含め、今回の全日本大学駅伝の出場に際し、ご支援、ご協力くださった多くの方々に深く感謝申し上げます。また、私個人の話ではありますが、大会への参加が危ぶまれる中で交渉や調整をしていただいた方々のおかげで、無事出走できました。本当にありがとうございます。

〈レースについて〉

4 区 11.8 km 37' 20" (ave 3' 09"8 /km)

区間 25 位 /27 チーム

ラップ: 3' 06-08-10-11-07-09-13-10-15-10-13-2' 31" (0.8 km)

レースプランとしては、単独走であっても周りに人がいても変えずに、4 区に複数回あるアップダウンを、上り坂、下り坂をセットで考えて ave 3' 09"8~3' 12"0 /km で走り切るというものでした。

4 区で白タスキ(=早発)となったチームは東北大学のみだったので、終始単独走でした。所々時計を確認すると、部記録ペースを刻めていたので自信を持ってレースを進められました。上りで大きな失速することなく後半まで進みましたが、8~9 km にある鈴鹿大橋の上りでやや失速し 3' 15" /km ほどになりました。スタートからずっ

と部記録のことだけを考えて走りました。ラスト 2~3 km で前に信州大学の選手が見えたことが、最後の粘りを後押ししました。持っている力をほとんど出し切ったレースで、これまで経験したレースで 1 番楽しく充実した 11.8 km でした。応援、サポートしてくださった多くの皆様、本当にどうもありがとうございました。

来年は自分も 6 年生となり、長いと思っていた学生陸上もあと 1 年です。東北大学として、この全日本でもう一度最高の走りができるよう精進して参りますので、今後とも応援よろしく願いいたします。



スタート直後の木村

第 5 区(12.4 km)

牧野雅紘(4) 40 分 34 秒(区間 26 位)

結果は以下の通りです。

距離 : 12.4km

トータルタイム : 40' 34(ave3' 16/km) 区間 26 位

ラップタイム : 3' 05-08-14-16-15-21-13-16-18-21-20-18-(1' 21)

レース展開 : 岐阜協立、東海学連選抜、環太平洋大学、札幌学院大学、信州大学、東北大学の 6 校で繰り上げスタート。集団が 3' 07/km を切るペースで入った場合は単独走を行う予定であった。集団は 3' 03/km あ

たりで最初の 1km を通過したため単独走を行った。5km 地点で信州大学の選手に追いついたため、後ろにびったりとついて足を休めた。ただ予想よりも信州大学の選手のペースが遅かったため 6km 過ぎで前に出たが、信州大学の選手はついてこず再び単独走となった。その後は、400m ほど前を走る環太平洋大学の選手を追う意識で走り、徐々に差を詰めたものの追いつくことなくゴールした。

まずは OBOG のみなさま、ご支援・ご声援ありがとうございました。目標の部記録まで 32 秒届きませんでした。1, 7, 4, 8 区で院生が貯金を作ってくださいましたが他の区の学部生がそろって借金を作ってしまい、経験不足が露呈しました。来年以降、より多くのレースに出場し経験を積むことが全日本出場、部記録達成につながるでしょう。そのように問題なく陸上部が活動するには OBOG の皆さんの力が必要です。来年以降のチームのために、変わらずのご支援を今後ともよろしく願いいたします。

第 6 区(12.8 km)

工藤大介(3) 42 分 34 秒(区間 27 位)

6 区を走りました工藤です。

記録は 42' 34(ave:3' 19/km)でした。

今回のレースは 9km 過ぎから、急激にペースが落ちてしまいました。その失速があり目標としていた部記録更新を達成することができず悔しい思いです。

来年も伊勢路に戻ってきてこの悔しさを晴らせるように頑張りたいと思います。

遠征費の支援、そして応援をして下さった OB, OG の皆様に感謝申し上げます。



工藤の終盤の走り

第7区(17.6 km)

脇田陽平(M2) 56分08秒(区間23位)

・結果

7区 手元 17.64km 56'08 区間22位 (選抜チームを含み23 / 27位)

ラップ: 3'08-10-13-14-09-10-10-08-11-10-08-06-09-13-14-18-18-1'57(640m)

5km 通過: 15'54, 10km 通過:

31'45(15'49), 15km 通過:

47'37(15'51)

・レース振り返り

一斉スタートが想定されたので、集団の後ろで走る予定でしたが、スタート時に他の選手よりワンテンポ早かったのもあり、最初から前に出させられ、10km過ぎまでは基本的に前で引く形になりました。予想外の形ではありましたが、3'10前後の目標通りのペースで比較的余裕を持って走ることができました。

12km手前で岐阜協立の選手が急激にペースを上げ、着いて行こうとしたが、離され

てしまい、なんとか差を詰めようとして、2kmくらいはペースをあまり落とさず走りましたが、15km過ぎから苦しくなり、一人になってから風を意識してしまったこともあって、3'20近くかかってしまいました。ゴール手前の跨線橋でも登りがきつく、なんとか登り切ったが、思っていた以上に下りでスパートができずゴールしました。

・感想

結果としては、目標としていた部記録のペースより速いペースで走ることができましたが、区間順位としては、目標を少し下回ってしまう結果でした。反省点としては、中盤までは集団で走っていたこともあり、先頭を引く形になってもリラックスして走れていましたが、前と離れだしてから動きが悪くなってしまった点があると思いました。

今回、出場するにあたり、多くの支援、声援を頂きました、OB・OGの皆様、本当にありがとうございました。



一斉スタートでスタートをきる脇田

第8区(19.7km)

松浦崇之(M2)1時間00分19秒(区間10位)

最後の全日本を終えて

8区 19.7km 60' 19 区間10位

6年間で6度もこの駅伝に出走した。チームとして5度も出場した。しかし、1度もチームの目標は達成できなかった。6度の全日本、毎年毎年、異なる気持ちで臨んでいた。1年目、襷の掛け方もわからず、とりあえず全力で走った。いつの間にか終わっていた。2年目、部記録を目指し、エースとしての自覚を持ち1区を走った。大失敗に終わった。部記録には5秒届かなかった。3年目、チームというよりも、個人として全日本にリベンジする気持ちで臨んだ。正直、他の選手の走りには興味がなかった。4年目、チームとして出場できなかった。選抜チームとして全力で走った。5年目、言葉では部記録を目指すと言いつつも、心の中では無理だと思いながら臨んだ。そして、6年目、言葉だけではなく心から部記録を本気で目指して臨んだ。それでも、届かなかった。目標は達成できなかったが、悔しさは想像以上に小さかった。このような性格だから、私は高みを目指せないのだと思う。しかし、私はそんな自分の性格は嫌いではない。チームの目標への執着心よりも大事にしている考えが私にはあるからだ。それは、チームメイトへの影響力だ。目標には、個人の目標とチームの目標がある。個人の目標は個人で完結するので、達成するかしないかが最重要であると私は考えている。目標が達成できずとも目標を目指すプロセスで成長はする。しかし、その成長は自身のだけのものであり個人で完結する。他人(客観)からの評価の基準は「達成したかしたかったか」である。一方でチームの目標は個人では完結しない。私がチームの目標を目指すプロセスの中でチームメイトへ影響を与え得る。逆も然り。そのため、目標を達

成せずともチームメイトに影響を与えたという事実が残る。

全日本が終わり、後輩たちが口を揃えてこう言った「部記録が更新できず悔しい。M2の先輩達に申し訳ない」と。後輩たちがその思いを糧に、来年以降「さらに速くなりたい、強くなりたい」と思ってくれたなら、この東北大学の陸上競技部長距離パートで活動してきた私の6年間がその後輩達に影響を与えたという事実が残り、私のチームとしての活動に意味が生まれる。来年以降、私たちの代が抜ける穴は想像以上に大きいと思う。しかし、それに悲観するのではなく、その穴を埋め、それ以上の実力をつけるという気持ちを持って欲しい。本当にチームメイトには感謝をしている。2年の全日本が終わってから長距離パートに所属し活動する意義が薄れていたこんな自分に「部記録更新」という目標を与えてくれて、競技に本気で取り組む理由を与えてくれた。そんなチームメイトには本当に感謝をしてもしきれない。来年以降は私もOBの仲間入りです。応援しています。

最後に、OBOGの皆様、そして部員の皆様へ

こんなどうしようもない私にも関わらず、この6年間、多くの方々からご支援、ご声援がありました。本当にありがとうございました。



ゴールテープを切る松浦



出場したメンバーとサポートメンバー(感染対策を十分にして撮影しております)

○リレーマラソン(11/13)・・評定河原グラウンド

例年11月中旬に行われていた秋保マラソンですが、コロナウイルスの感染拡大の懸念により中止となりました。代替イベントとして11月13日(土)に評定にてリレーマラソンを行いました。

実施方法

1)1度にトラックを走る周回を以下にする。

- ①中距離・長距離・競歩…4周
- ②短距離・ハードル・跳躍…3周
- ③投擲・マネージャー…2周

2)①から4人、②から3人、③から1人の1チーム8人編成。

3)1人2回走って計54周でゴール

OBOGチーム1チーム、学生9チーム、全10チームで競争しました。

以下結果を紹介いたします。

第1位[向田バイバイ]チーム

区間	氏名	周数	区間タイム	合計タイム
1	吉田(3)	3	4分15秒50	4分15秒50
2	相澤(2)	4	4分56秒87	9分12秒37
3	柄澤(M)	3	4分39秒16	13分51秒53
4	大谷(2)	3	4分25秒23	18分16秒76
5	原(2)	2	3分10秒51	21分27秒27
6	井上(3)	4	4分55秒97	26分23秒24
7	深澤(1)	4	4分58秒81	31分22秒05
8	阿部(3)	4	5分50秒34	37分12秒39
9	相澤(2)	4	5分36秒63	42分49秒02
10	井上(3)	4	5分02秒55	47分51秒57
11	深澤(1)	4	4分56秒99	52分48秒56
12	柄澤(M1)	3	4分50秒07	57分38秒63
13	大谷(2)	3	4分29秒51	1時間02分08秒14
14	原(2)	2	3分13秒72	1時間05分21秒86
15	阿部(3)	4	5分49秒09	1時間11分10秒95
16	吉田(3)	3	4分27秒15	1時間15分38秒10

第10位 OB・OGチーム

区間	氏名	周数	区間タイム	合計タイム
1	伊藤 弘昌	2	4分8秒26	4分08秒56
2	斎藤 和也	4	5分17秒42	9分25秒98
3	海部 和則	4	5分57秒04	15分23秒02
4	吉田 真人	4	5分08秒23	20分31秒25
5	菊池 春恵	3	4分11秒39	24分42秒64
6	熊谷 駿	4	5分30秒52	30分13秒16
7	千葉 智史	3	4分40秒34	34分53秒50
8	岡田 圭太	3	4分19秒02	39分12秒52
9	佐藤 健二	2	4分00秒47	43分12秒99
10	斎藤 和也	4	5分18秒71	48分31秒70
11	海部 和則	4	5分55秒08	54分26秒78
12	吉田 真人	4	5分16秒82	59分43秒60
13	菊池 春恵	3	4分05秒96	1時間03分49秒56
14	熊谷 駿	4	5分32秒67	1時間09分22秒23
15	千葉 智史	3	4分50秒17	1時間14分40秒01
16	岡田 圭太	3	4分25秒93	1時間19分05秒94

以下当日の様子を紹介いたします。



○第 75 回宮城県駅伝競走大会 (11/21)・・石巻市総合運動公園(石巻)

11月21日(日)に石巻市総合運動公園北上川周回コースにて第75回宮城県駅伝競走大会が開催されました。本大学からは、A、B、C、Dチームの4チームが出走いたしました。Aチームは目標の優勝を果たしました。以下4チームの結果になります

順位	チーム名	1区 (6.5 km)	2区 (6.7km)	3区 (5.9 km)	4区 (8.4 km)	5区 (10.7 km)	6区 (6.0 km)	総合成績
1	東北大学 A	牧野雅紘(4) 20:09[2] 20:09[2]	木村秀(5) 39:52[1] 19:43[1]	立野佑太(M2) 58:04[1] 18:12[2]	脇田陽平(M2) 1:24:31[1] 26:27[3]	松浦崇之(M2) 1:54:58[1] 30:27[1]	三浦大樹(M2) 2:14:06[1] 19:08[4]	2:14:06
5	東北大学 B	坂本順(2) 20:48[9] 20:48[9]	安本尚生(1) 40:45[3] 19:57[3]	黒須大地(M1) 59:43[4] 18:37[9]	工藤大介(3) 1:26:42[6] 26:59[5]	井上大輝(3) 2:01:22[6] 34:40[8]	田沼怜(M1) 2:20:08[5] 18:46[1]	2:20:08
16	東北大学 D	小林由輝(1) 21:46[23] 21:46[23]	緑川翔太(2) 43:15[20] 21:29[15]	渡辺大樹(1) 1:03:14[18] 19:59[18]	楨木直人(1) 1:31:54[18] 28:40[16]	児玉健太(3) 2:05:19[16] 35:19[10]	石垣雅紀(4) 2:27:30[16] 20:42[17]	2:27:30
17	東北大学 C	鳥山拓実(1) 21:43[22] 21:43[22]	高野陽向(1) 44:31[25] 22:48[27]	向田裕翔(1) 1:03:05[16] 18:34[3]	渡辺喬介(2) 1:30:48[16] 27:43[9]	矢嶋由弦(2) 2:07:31[17] 36:43[24]	西村樹(4) 2:28:39[17] 21:08[19]	2:28:39



集合写真



優勝した東北大学 A チーム
[左から脇田、立野、三浦、牧野、木村、松浦]

◎各種大会

第 90 回日本学生陸上競技対校選手権大会 (9/17~9/19)・・熊谷スポーツ文化公園

佐貫有彩 (M2)

女子 100m

予選 4-4 12.11(+0.7)3着 q

準決勝 1-3 12.21(+0.6)8着

女子 200m

予選 2-5 24.94(+0.8)4着 q

準決勝 1-2 25.03(-0.1)7着

100m と 200m に出場し、両種目とも準決勝敗退という結果でした。1ヶ月前の仙台大記録会において、100m で自己ベストを更新したこともあり、自己ベスト更新と一つでも多くラウンドを進めることを目標に大会に臨みました。しかしながら、8月以降、怪我の再発を繰り返し、うまくピークをもってこれず、納得のいくような結果を残すことができませんでした。

今大会の出場は多くの方の交渉・協力により実現しました。この場をもって御礼申し上げます。また、当日はサポートメンバーにきていただくなど、充実したサポート体制の中、競技に集中することができました。今後もこのような支援をしていただけたら、よりよい成果につながるのではないかと思います。

応援、ご支援いただきありがとうございました。

菅田理乃(1)

女子 400m

予選 4-7 57.30 2着 Q

準決勝 3-9 57.35 6着

今回、女子 400m の B 標準を切って初めて全日本インカレに出場しました。今年の 4 月の下旬に入部し、中距離パートのみなさんと一緒に練習しています。受験シーズンは一切走っていなかったため動きが悪く、

今シーズンまだ一度も B 標準を切って走れていない状況でしたが試合に臨みました。

予選は 7 レーンだったため入りからスピードを上げました。後半失速はしたものの、2 人の選手が棄権していたこともあり 2 着でゴールし、着順で準決勝には進めました。夏休みに質の高い練習が積めた点や七大戦ぶりの大会出場である点、トップレベルの選手と一緒に走れる点から、自己ベスト更新を期待して走ったので自己ベストとはほど遠かったことが悔しかったです。

準決勝は予選の疲労が心配でしたが思っていた以上に足が動きました。予選同様入りからスピードを上げました。予選よりも早い段階で他の選手が視界に入ってきたため追いかけることに必死でした。再び自己ベスト更新できず悔しかったです。

今大会に参加して、全カレの雰囲気を感じることができたことはよかったです。来年は入賞できるように持久力強化を目指して日々の練習に取り組もうと思います。

最後に、本大会に関する手続きや運営をしてくださった方々、応援・サポートしてくださった方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

男子 400m 予選

2-7 佐藤千仁(3)48.57 3着

スタートから 100m はリズムに乗って徐々に加速する。バックストレートに入ってから内側の実力者のスピードにおいていかれそうになるも、第 3 コーナーで再加速し追いつく。ラストまで粘ったが力及ばず 3 着。

女子 800m 予選

6-3 小川明音(4)2:14.77 7着

100m のブレイク地点で集団の最後尾(9番手)に着く。そのまま 400m を 63 秒で通過。

400m から 600m にかけて 7 番手まで順位をあげるものの、700m 通過後 1 人に抜かれる。ゴール直前に 1 人追い越し、全体の 7 着でゴール。

男子 400mH 予選

1-8 加地拓弥(M1)52.93 6 着

400mH では、今年は B 標準が前年の 51” 20 から 52” 00 まで下がった中、8/8 の仙台大競技会にて 51” 98 の自己ベスト・部記録を出し、B 標準を切って今大会に出場しました。

スタートから 1 台目までほぼ完璧に入り、バックストレートに入ってからには周りにつられてオーバーペースになり過ぎないように 4 台目まで越えました。しかし、5 台目でやや間延びしてしまい、減速。6 台目でギアチェンジを図るものの上げきれず、一気に置いて行かれました。ホームストレートに入ってから 15 歩で行くことが精一杯でスピードは維持できず、6 着でのフィニッシュでした。

今季は 6 月の東北インカレ以降調子を上げ、自分の中で最も良い走りの感覚であった大学 2 年時をようやく超えた手応えを感じ、その勢いのまま標準を突破することができました。しかし、全カレ 2 週間前に就職活動や研究活動の影響で、満足に練習を積み切れない期間があり、一度調子と体力を落としてしまった中で再び調子を上げて臨んだ大会でもありました。レース後半に粘り切れなかったのはこの詰め甘さであると感じています。

また、今回マイルリレーも同時に出場させていただきました。私事ではありますが初めての全国の舞台で 2 種目も走れた上に、今夏の東京五輪を沸かせた日本代表選手たちと同じ場所で走るといった貴重な経験をさせていただき、日本トップレベルの走力を肌で感じる非常に良い刺激となると同時

に楽しんで走ることができました。来季標準が元に戻る可能性があります、その際には再び標準を切り出場、そして準決勝進出が果たせるよう、忙しい中でも時間を確保し練習に励む所存です。

本大会は多くの方々の応援・サポートのお陰で出場でき、そして競技に集中することができました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

男子 4×400m R

3-1 東北大(斉藤宥(2)-佐藤千(3)-片桐(4)-加地(M1)) 3:14.25 5 着

1 走 斉藤(2)は序盤で外側の筑波大学に離されたがラスト 100m でピッチを落とすことなく走り切り 6 番手でバトンパス。

2 走 佐藤(3)は前半のリラックスかつ安定した走りの中盤で切り換え、ホームストレートではダイナミックな走りを見せ 6 番手でバトンパス。

3 走 片桐(4)は、最初のコーナーでしっかり加速し、そのままスピードを維持してバトンパス直前に 1 人抜き 5 番手で 4 走に繋いだ。

4 走の加地(M1)はバックストレートで抜かれた相手を最終コーナーで抜き返し、ラストは維持の走りでさらに引き離し 5 着でフィニッシュ。

2021 北上フィールド競技会 (8/9)

…北上総合運動公園北上陸上競技場

男子三段跳

藤田想(1) 13m61(-1.3) 7 位

第 65 回北陸陸上競技選手権大会 (8/21-22) …富山県総合運動公園陸上競技場

女子 800m

小川明音(4) 2:18.54 1 位

8/28、29 に開催予定であった第 48 回東北総合体育大会陸上競技兼第 52 回東北陸上競技選手権大会兼第 106 回日本陸上競技選手権大会東北予選会は中止となりました。

9/21～24に開催予定であった第35回国公立27大学対校陸上競技大会は中止となりました。

10/23、24 に開催予定であった第 72 回東北地区大学体育大会陸上は中止となりました。

◎自己ベスト更新者(8/9～12/3)

- | | |
|---|---|
| ・男子 100m
岡田幹太(2) 11.58(+0.5)
若宮太記録会(10/2) | ・男子 5000mW
辻本隆文(3) 23' 06" 07
第 15 回蓮田市選手権兼
2021 長距離記録会(10/31) |
| ・男子 200m
片桐大地(4) 22.69(-0.9)
第 6 回佐野選手権(10/16)
加地拓弥(M1)22.11(-0.5)
第 6 回佐野選手権(10/16) | ・男子走幅跳
久保田大聖(1)6m29(+1.8)
若宮太記録会(10/2) |
| ・男子 400m
佐藤千仁(3) 48.57 全日本インカレ
加地拓弥(M1)49.27 仙台大記録会(10/9)
二ノ神遼(4) 50.79 仙台大記録会(10/9)
岡田幹太(2) 51.70 仙台大記録会(10/9) | ・男子棒高跳
根本大輝(2) 3m40 仙台大記録会(10/9) |
| ・男子 110mH
加地拓弥(M1) 15.13(-0.6)
第 6 回佐野選手権(10/16) | ・女子 400m
柄澤菜々美(M1)63.57
第 8 回仙台大競技会(10/30) |
| | ・女子 800m
阿部柚佳(3) 2' 30" 69
仙台大記録会(10/10) |

◎今後の予定

- | | | |
|--------|-------------------------|---------------|
| ・12月 | 三秀総会 | …書類送付 |
| ・1月15日 | 第18回国公立27大学対校駅伝大会 | …熊谷スポーツ文化公園 |
| ・2月20日 | 第105回日本陸上競技選手権大会 20km競歩 | …兵庫県神戸市 |
| ・3月13日 | 第25回日本ハーフマラソン選手権大会 | …東京都立川市 |
| ・3月 | 卒業祝賀会 | …オンライン(詳細検討中) |

◎編集後記

パンデミックが落ち着き始め、少しずつではありますがコロナ渦以前の練習に戻りつつあります。冬季はトラックが凍結したり、雪が積もったりと思うように練習できない日々が続くと思います。来シーズンでよい結果を残すためにもこの冬の練習を大事にして、日々精進していきたいと思います。OB・OGの皆様、引き続きたくさんのご声援をよろしくお願い致します。

文責 OBOG 通信担当 安藤彩澄

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp